

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290700131		
法人名	社会福祉法人 いわうみ会		
事業所名	グループホーム みんなの家 つつじユニット		
所在地	島根県浜田市熱田町1227番地		
自己評価作成日	平成30年6月25日	評価結果市町村受理日	平成30年9月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成30年8月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、入居者様の「思い」に焦点を当て、五感を大切にしながら生活そのものを感じて頂けるよう、調理や家事を通して出来る事を職員と一緒に頑張って共働する事で役割や生きがい作りが出来る様に取り組みました。自分から意思を表出される事が少ない入居者様が「自分らしく笑顔で暮らす」為にはどう関わっていくべきなのかを職員一人ひとりが考え、話し合い、一瞬一瞬の笑顔が引き出せるケアへの実践へと繋げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時から行っている「みんなのフェスタ」は、多彩なボランティアによる踊りや犬・猫との触れ合いなどもあり利用者や参加者が楽しめるように工夫して取り組んでいる。地域の人から梅をもらい、ジュースや梅干を作ってお返しをするなど新しい取り組みもあった。それぞれのユニットが職員同士の話し合いを重視して情報を共有し、利用者同士の関係改善や、活動と休息のメリハリをつけるためのケアを行い、一人ひとりの思いを大事にした支援に努めている。管理者や職員の異動はほとんどなく、安定した環境を作り利用者を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々の出来るところを重視し見守り、出来ない事への援助体制を振り返り、常に事業所理念を追求しつつ、時には立ち戻って気づきの実践へと繋げている。	理念を掲示し、ユニット会議などで確認し合い、プランに反映させて実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々施設が実践している高齢者ケアのノウハウを在宅ケアの参考にしてもらう為に事業所は地域住民に研修参加を案内し地域との付き合いが深まるように努めていきたい。	開設時より「みんなのフェスタ」で交流を図り、地域行事や清掃活動への参加など出来ることから取り組み関係づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症や高齢者の方が特別な存在ではなく事業所が特別な場所ではなく、当たり前存在として認知される為に日頃から外へ出掛ければ挨拶を交わしてかけ橋となるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は必要な参加メンバーは整い防災・防犯・自治会の協力等双方向的に意見が出されて、家族の代表も積極的に当会議に参加されており、運営に反映している。	利用者の状況や活動、ヒヤリハットなどを報告し、地域の情報提供を受けたり意見交換をしている。今後さらに会議内容の発展を考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは運営推進会議の時に現状を報告し、意見・アドバイスをもらって連携に努め、ケアの対応が困難なケースの場合は市をはじめ医療機関等との連携も構築している。	運営推進会議で状況を伝え情報や助言を得ている。困難事例は相談し協力して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会で共有した身体拘束の禁止対象行為をユニット間でロールプレイングし常に身体拘束は駄目というケアに取り組んでいる。	指針の見直しを行い全職員で内容を共有している。センサーマットについて話し合い、つじは職員にアンケートを行い、意識的に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修会へ参加し、職員会議の中で研修報告を行い、そのような行為に繋がらないように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修において制度の理解は出来ている。活用を視野に入れて支援する事は現段階においては難しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては十分に時間をとり説明・納得して署名を頂いている。専門用語等難しい表現はかみ砕いて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	広報誌を3か月に1回、便りは毎月1回担当者から日頃の様子を伝える形で送っている。面会やお電話の会話の中で運営に向けての意見を得る場として機会を多く持つようにしている。	面会時や電話などで意見を聞くことに努め、意見をサービスに反映させている。今年度から毎月2名の相談員の来訪があり意見や気づきを伝えてもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	それぞれのユニットに中心的な職員を配置しており、その職員が他の職員を引っ張っていくような良好な形が出来つつあり、積極的に資格取得等個々の能力を高める動きに繋がっている。	両ユニット共にユニット会議などで意見や疑問など何でも言えるように配慮している。さらには、毎日振り返りの時間を設け意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度人事考課を行い、その結果を踏まえ給与等の待遇面に反映している。また面談も行い、自分の課題や目標について話す場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人独自の人事考課を実施し、各職員の自己評価、各ユニット責任者による評価を行っている。また、年間の研修計画を作成し職員が参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では忘年会や歓送迎会など交流する機会がある。管理者・介護支援専門員現場の職員それぞれの研修で外部との交流を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援専門員を中心に、本人様が困っていることや不安・要望などしっかり耳を傾け関係作りに努めている。また、お一人お一人に担当の職員を設け信頼関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護支援専門員を中心に、家族様とも積極的にコミュニケーションを取るようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、以前の生活の様子や習慣等しっかりと聞き取りを行い、なるべく入居前と同じ生活が送れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る事はして貰いながらそれぞれが役割を持ち、生活出来る様支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にも声を掛け、施設行事に参加して貰っている。また時々自宅に帰ったり外出したり家族との関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者は自由に出入りが出来て、入居者様は家族や友人等馴染みの面会者との交流が途切れる事なく関係は続いている。又、入居者様の意向を尊重した美容院やスーパー等との繋がりを大切にしている。	家族や友人との関係や利用者の思いを大事にし、外泊や外出、ハガキのやり取り、犬を飼っていた人に行事の中で触れ合う場を作るなど、工夫した取り組みをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士も気が合う合わないがあるので席の配置や入居者の間に職員が入って仲を取り持ちながら、共同で作業されて楽しい時間を過ごせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も退所先の施設や病院を訪問しご本人に面会する等して状況確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人だけでなく、ご家族からの聞き取りは熱心に行い、本人が表せない思いや希望を汲み取るように常に気にかけている。入居者様は自然な表情で自由に行動しており、管理される事のない穏やかな暮らしが出来る。	モニタリングや日々の関わりの中での気づきを共有し思いの把握に努めている。つつじは、研修を受けて、表出の困難な利用者に飲み物などを写真で選択して貰うケアに取り組んだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活スタイルを本人や家族から情報を得て、得意な事、興味のある事日課にしていた事等を継続して貰える様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態の把握に努め活動状況・睡眠状況の検討を行い適した生活を考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思い、表情から読み取れる思いを把握し、毎月のユニット会議で話し合い対応や解決策を検討している。	利用者の状況や気づきを話し合い、職員が共通認識をもって関われるよう目的や注意点を盛り込んで作成している。電話や来訪して話し合う家族が増えた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々録やカンファレンス記録を活用し入居者一人ひとりの情報を共有している。ユニット会議時に気になる事や感じた事を話し合い、より良い対応を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族等の状況に応じて通院・訪診等必要な支援は柔軟に対応している。かかりつけ医との連携も図られており、多機能を活かした支援がなされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加する事で交流をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関やかかりつけ医を受診している。また、その他の医療機関にも受診は可能である。	希望するかかりつけ医を継続し訪問診療や受診の支援をしている。必要時には家族に同行してもらい、医師に観察記録を提供して相談し支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師は入居者の日常生活を重視した関わりに努めている。本人の変化などについて介護職員からの相談や情報収集に努めて必要な時はかかりつけ医や家族への相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される方が減ったが、入院時には情報提供をしたり、面会をして入院中の情報把握をしたり、退院前カンファレンスに参加してスムーズな退院が出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の入居者・終末期を迎える入居者のケア体制は、切迫の課題とはなっていないが、本人・家族との話し合いを早い段階から見据えて事業所の対応策定に努めている。	入居時に家族に方針を説明している。重度化に合わせケアマネージャーが中心になって家族と話し合い、今後の対応を検討している。	利用者、家族にとって状態変化による退去は最も不安なことと思われるので、元気なうちから対応について定期的に話し合われることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの読み合わせ等で共有している。 救命救急の研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	土砂災害・火災想定避難訓練を行っている。水害に関しては、注意報が出たら職場に集合して各自役割分担をしている。	総合訓練や土砂災害の訓練を行い、実際に避難場所への移動を行った。振り返りから、地域の協力を得ることが課題だと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にある通り意識しているが、日常の親しい関係性から言葉遣いを課題と考える職員は多い。一方入居者様が親しみを持てる事や分かり易い言葉遣いにも気を付けている。	両ユニット共に利用者への言葉づかいに気をつけ、職員同士が互いにフォローしながら対応している。利用者の思いや希望を聞くことに努め、一人ひとりを尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いや希望を汲み取りながら自己決定が出来る様な声掛け等に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペースや体調に気を付けながら希望に沿って支援出来る様な声掛け等に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望を確認しながら、入浴時や外出時は服を選んで頂いている。選ぶ事が困難な方は職員が身だしなみに気を付けながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	つつじ農園で季節の野菜等を作られ食材にしたり、季節の野菜の下ごしらえをする事で五感を感じて頂けるようにしている。	利用者は盛付けや台拭き、食器片付けなど出来ることを行い、つつじは、落やらつきよなど季節の食材で調理を楽しめる場面を作っている。アンケートを実施して寿司など好みの物を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた食事の提供を心掛け一人ひとりの状態に応じて支援している。食事量・水分量は毎日チェックを行い、水分が摂れない方は好みの物を提供して工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛け、介助を行い一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し日中、夜間ともトイレ案内が出来るよう自立に向けた支援を行っている。	声かけや見守りを行い自分で出来ないところをさりげなく支援している。さらには、失敗が増えた人にはデータをまとめ、家族とも相談して適切な排泄用品を使用し快適に過ごせるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多く含まれる食材の利用、体操・散歩等身体を動かす機会を作り個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴して頂ける様支援している。入浴したくない方には、時間をずらしたり日を改める等し、入浴出来るよう支援している。	計画を立てて支援しているが、希望や体調に配慮し柔軟に対応をしている。特殊浴槽を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を把握し、又眠れない時は温かい飲み物を提供し、リビングで過ごして頂いたり安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は個人ファイルに綴じ、情報を共有し服薬の支援を行っている。病状の観察にも努め、変化等あればかかりつけ医へ報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や掃除・洗濯物の片づけ等それぞれに日常の生活の中で役割を持って貰い、張り合いのある日々を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや花見・季節の行事での外出だけでなく、日用品の買い物や季節ごとにホームのプランターで育てている野菜や花を育てることも外出に繋がっている。	買い物や外食、散髪、ドライブなど希望に合わせて支援し家族と外出する人もいる。日頃から利用者の声を聞き、すぐには実現出来ない場合も話題の場所や思い出の場所へ出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度のお金を自分で管理されている方も、施設でお金を保管されている方も買い物や外出の際はご自分で支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を管理されている方は自ら電話されたり、電話を取り次いだり、季節の挨拶で手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や廊下の壁に季節に合わせた入居者様の作品、飾り付けをしている。共有空間や居室の温度や明るさは居心地良く過ごす事が出来る様にしている。	花や手作りの作品などを飾り季節感のある環境づくりをしている。雑誌や新聞、お茶道具など馴染みの物を置き、好みの場所で過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは入居者様同士で過ごし居室へ相互訪問もされている。又、玄関先や庭にベンチを置き、思い思いにくつろげる環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや夫の写真や小物等使い慣れたものを持ち込んで頂き、自宅に近い環境作りを心掛けている。	家族の写真や本人の笑顔の大きな写真、孫からのプレゼント、趣味の品などを置きその人らしい居室づくりをしている。季節ごとにタペストリーを替えに来る家族もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、トイレ内は自由に移動が出来る様広い設計になっている。段差もなく歩行の障害になるものは置かれていない。ユニットの行き来は自由に出来るようになっている。		